

学校経営推進費 評価報告書(1年め)

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立寝屋川高等学校 全日制の課程・定時制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	1 全定相互協力の行事の実現 2 「いのちのメッセージ展」等学校内外に発信するイベントの実現 3 学校教育自己診断の生徒の「命や人権」にかかわる項目の肯定度向上 4 (全) 学校教育自己診断の「自分の考えをまとめ発表」の項目の肯定率向上 5 (定) 中途退学率の減少
計画名	寝屋川高校は一つ「いのち・きづなプロジェクト」 ～全日制定時制をつなぎ、そして地域から世界に発信する寝屋川高校～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>【全日制】</p> <p>2. 21世紀型能力の育成 高校卒業後すぐの進路だけでなく将来を見据えた社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する。</p> <p>(1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む。</p> <p>(2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う。</p> <p>(3) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神のや国際感覚の育成を図る。</p> <p>(4) 生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させる。</p> <p>(5) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨。</p> <p>※ 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率(H30 87%)をR3年度には92%にする。</p> <p>※ 「自分の考えをまとめたり発表したりする機会」の肯定率(H30 82%)をR3年度に92%にする。</p> <p>【定時制】</p> <p>2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える。</p> <p>(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。</p> <p>ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。</p> <p>※ 生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率(H30 年度 83%)をR3年度には85%にする。</p>
事業目標	<p>(食堂フロアを活用した)「絆(きづな)空間」の整備 ～展示・プレゼン・ポスターセッション等の形で、集い発信できる空間の創設～</p> <p>本校は全日制・定時制2課程を有する学校であるが、生徒の活動という観点から見れば、まるで異空間であるかのような状況がある。同じ空間で学ぶ高校生としてお互いを認め合いその存在を十分理解できる取組みを進め、身近な存在をしっかりと理解したうえで、全定一体で時には課程ごとに地域へそしてグローバルに様々なメッセージを「絆(きづな)空間」を中心に発信していく。まずは寝屋川市が特に大切にしている「いのち」をテーマとした発信をする。</p>

	それらの取組みにより、他者を思いやりいのちを大切にする心を育むとともに、コミュニケーション能力を高め他者とつながる「生きる力」を育成し、さまざまな世界へ打って出る気概を育てる。
整備した設備・物品	寝屋川高校「絆(きずな) 空間」の整備(通用門直近の食堂フロアを整備) 遮光ロールスクリーン(1)、台形テーブル(24)、スタックチェア(66)、ホワイトボード(4)、大型冷風扇(3)、有孔ボード(1)
取組みの 主担・実施者	主担 「いのちの絆 PT(全・定)」全定とも(教頭・首席・生徒会主担・生徒指導部・人権推進委員長・教職員有志)と生徒会役員 実施者については全教職員・全校生徒(全・定)
本年度の 取組内容	PTのメンバーで寝屋川高校「絆(きずな) 空間」の設計・整備を行った。その際、生徒の意見を取り入れ、レイアウトした。 全定の生徒会役員が主体となり、授業に影響しない16時～17時の時間帯で、2回実施した。1回めは可動式のプロジェクターを使用して「相互の活動や学校紹介を行う交流」を実施。その際、遮光ロールスクリーンがプロジェクターで映し出されたスクリーンとなり、大きく役に立った。机は台形のため、様々なスタイルに対応でき、1回めの交流時の発表は、ニュースキャスターの形態で台形テーブルを組み合わせ、全定の生徒会役員が見入るような状況で実施できたことで、交流の設定と実施に自信を持った。 2回めは「交流を深める・絆空間をどのように活用していくのか」をテーマに実施した。スタートは全定混成のチームによるアイスブレイキングで「謎解き」を行った。その後、テーブルを円状に組み替えグループディスカッションを行い、活用についての方法(案)をホワイトボードに書き出した。最終的に「案」はかなりの数が出たが、具体的に話を進めていく時間が十分とれず、次年度継続となった。
成果の検証方法 と評価指標	1 ・ 全定合同の生徒会役員会の実施 ⇒年間2回実施 学校教育自己診断(生徒)結果(全) 2 「学校行事に積極的に楽しく参加できる」(H30 84.6%) ⇒目標 87.6% 3 「人権について学ぶことがある」(H30 87%) ⇒目標 90% 4 「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H30 82%) ⇒目標 85% 5 中途退学率(定)(H30 13.8%) ⇒目標 10.8%
自己評価	1 全定合同の生徒会役員会の実施 2回……………(○) 学校教育自己診断(生徒)結果(全) 2 「学校行事に積極的に楽しく参加できる」今年度 86.5%……………(△) 3 「人権について学ぶことがある」今年度 90%……………(○) 4 「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」今年度 84.7%……………(△) 5 中途退学率(定)今年度 12.9%……………(△) 全定の生徒会担当教員が、生徒の自己有用感や自立心などの醸成に向けた取組みについて何でも会議を実施する中で、教員自身の相互理解が進んでいった。その成果が、全定生徒会役員の交流に現れている。1回めは緊張感があったが、プレゼン形式で行ったことで、それぞれの課程の生徒間で「絆」が生まれ、全定の生徒の「想い」が繋がった。2回めではさらに目標を掲げた活動に向け、全定混成でのグループディスカッションが実施できた。限られた時間の中での実施ではあるが、大変有意義な取組みであった。 全定生徒会役員の意識の醸成と普及が、学校全体に広がるには時間を要するが、全日制全体としては目標値を達成しており、今後の展開は期待できる。……………(◎)

次年度に向けて

今後は、全定がそれぞれの課程で生徒会役員中心に相互理解と交流の意識を醸成し、「いのちの尊さ」をテーマに「いのちの絆プロジェクト」が高校生主体の活動となるよう、様々な面からのアプローチを行う。

それらにより、他者を思いやりいのちを大切にすることを育むとともに、コミュニケーション能力を高め他者とつながる「生きる力」を育成していく。そのために、

- ①全定合同生徒会活動の定例化
- ②学校行事の協働業務の模索
- ③寝屋川市との共同業務の模索 を目標として取り組む。